

### 【今日の説教から】

神様と顔と顔とを合わせて格闘し、神様ががっぷりと相対してヤコブの悩みと恐れとに向かってくださいました。「私を祝福してください」彼の強い願いは通じました。しかしそれは彼の勝利ではなくて、「神は勝利される(=イスラエル)」という出来事でした。兄のかかとをつかみ、長子の権利をかすめ取ろうとする彼の野心は打ち碎かれ、勝利者である神様の陰に隠れて祝福を願う信仰の人と作り替えられました。そして今一度ベテル(=神の家)にて彼は一家の偶像を捨て去り、「わたしの苦難の日にわたしにこたえ、かつわたしの行く道で共におられた神に祭壇を造ろう」と語り、主を礼拝しました。かつてはそこを未だ知れぬ所へ出していく際の神様の守りを自分につなぎとめるための祭壇のような意味合いでしたが、今は違います。確かに守ってくださった神様への感謝と信頼と従順のしるしとなりました。

そして彼の12人の息子たちの物語が始まります。

今は亡き最愛の妻ラケルとの子ヨセフに上等な長衣を着せる父ヤコブのヨセフびいきに、他の兄弟たちは憎しみを増し加えていました。そんな中の彼の見た夢。兄弟たちは殺意を抱き、野を歩く彼を手にかけようとしていますが、彼を守ろうとする長子ルベンと、後に家督を継ぐユダとによって辛うじて命は救われますが、奴隸として遠くに売られる身となりました。しかし巡り巡って民族をエジプトに導くことになろうとは、だれが想像できたでしょうか。

皆様おはようございます。寒い寒い日々でしたが、お元気にお過ごしでしたでしょうか。雪の続く日々、そして最低気温も最高気温も氷点下というような日々がしばらく続きましたが、ようやく少し緩んでまいりました。それもつかの間、今週はまた寒波が来るようです。先日来のような強さはないものと思われますが、どうぞ皆様ご自愛ください。今月も今週と来週を残すのみとなりました。来週末はもう3月。春の到来を目の前にして、最後の寒さを乗り越えてまいりましょう。

さて、先週の聖書は創世記32章でした。神様と顔と顔とを合わせて格闘し、神様ががっぷりと相対してヤコブの悩みと恐れとに向かってくださいました。「私を祝福してください」彼の強い願いは通じました。しかしそれは彼の勝利ではなくて、「神は勝利される(=イスラエル)」という出来事でした。兄のかかとをつかみ、長子の権利をかすめ取ろうとする彼の野心は打ち碎かれ、勝利者である神様の陰に隠れて祝福を願う信仰の人と作り替えられました。そして創世記35章、今一度ベテル(=神の家)にて彼は一家の偶像を捨て去り、「わたしの苦難の日にわたしにこたえ、かつわたしの行く道で共におられた神に祭壇を造ろう」と語り、主を礼拝しました。かつてはそこを未だ知れぬ所へ出していく際の神様の守りを自分につなぎとめるための祭壇のような意味合いでしたが、今は違います。確かに守ってくださった神様への感謝と信頼と従順のしるしとなりました。

広島県と島根県の県境におろちループというループ橋があります。2360メートルの区間で、くねくねと回りながら、実に高低差105メートルの場所をつないでいます。島根の方から広島の方へと昇って行くのですが、夜の道をたどるとき、はるか遙か彼方、105メートルの上、最終的に登りきったところ、渓谷を懸ける橋の街路灯が小さく見えるのです。そこに最終的に道が確かに続いているのですが、何度も何度も坂を上ってぐるぐると回るばかりで、いつその高みの明るいところに到達するのか、果たして到達できるのか、不安なぐるぐるが続くのです。しかしその一歩一歩は確実に最終的な高みの到達点へと近づいており、ついに下から望み見た、あの地の底から垣間見た、天の世界にも見えたあのきれいな橋の光のそばを、その光を自分の脇に見て、自分がかつて通っていたはるか下の世界を眼下にしながら、あの高い高い天上のような世界を悠然と走ることが出来るわけです。

ヤコブにとってあの天の門、神の家は、彼にとってどん底のような場所であったのだと思います。荒涼な荒れ地で、硬い硬い石ころを枕にするほどに疲れ切って彼は何も持たずに寝ていました。その所に天からはしごを開いて、神様は天上の美しい世界を彼に見せてくださいました。そしてペヌエル。神様は彼と、顔と顔とを合わせて見つめ合い、体と体とをぶつけて彼としっかりと向き合い、受け止め、教え諭し、訓練し、彼の思いのたけを受け止めてくださいり、先ほどまでは命が消え去る恐怖におののいていた彼を、「私を祝福してください」と食い下がる、前向きな境地へと導いてくださいました。

彼はかつては兄のかかとをつかんで自分が先に立つという、人を押しのけ、追い越し、人の権利をかすめ取る野心家でした。

28:20 ヤコブは誓いを立てて言った、「神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、

28:21 安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。

28:22 またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。

彼は天からはしごを見せられてもなお、この後もたらされる神様の恵みと守りに対して少し懷疑的で、この枕の石を立てて、神様の家とし、神様をこの祝福の約束のうちにここにつなぎとめておこうと願いました。神様に約束を忘れずに実行するようにと請願させるかのようにここを契約後、神の家とし、石碑を立てたのです。彼はそういう風に野心的であり、求めて求めてやまない人でした。しかし損か彼に神様はがっぷり四つに組んでくださり、その野心的な力で突っ込んでくる彼をうっちゃりうっちゃって、彼をある意味叩きのめして神様のお力を見せつけて訓練を施されました。これで良しと思われた神様は「あなたの勝ちだ」と持ち上げながらも彼の桃の関節を外して彼を碎かれました。そして彼はもはやかかとをつかんで人を出し抜くヤコブではなくて、イスラエル、「神は勝つ」という名前を彼に与

えられたのです。彼が自力で勝って、彼が自力で算段して、計画を巡らして自分を持ち上げていくのではなくて、碎かれた彼が「神は勝つ」という、勝利者である神様をじっと見つめて、その神様の力によって助け導いていただくという真理に達したのです。神様を利用して自分の計画を成し遂げ、立身出世するのではなくて、勝利者である神様の陰に隠れて、神様のお導きの中で勝利を賜るという生き方に彼は作り替えられたのです。

創世記35章では、再びベテル(神の家)での神様とヤコブのやり取りが記されてあります。

35:1 ときに神はヤコブに言わされた、「あなたは立ってベテルに上り、そこに住んで、あなたがさきに兄エサウの顔を避けてのがれる時、あなたに現れた神に祭壇を造りなさい」。

35:2 ヤコブは、その家族および共にいるすべての者に言った、「あなたがたのうちにある異なる神々を捨て、身を清めて着物を着替えなさい。

35:3 われわれは立ってベテルに上り、その所でわたしの苦難の日にわたしにこたえ、かつわたしの行く道で共におられた神に祭壇を造ろう」。

35:4 そこで彼らは持っている異なる神々と、耳につけている耳輪をことごとくヤコブに与えたので、ヤコブはこれをシケムのほとりにあるテレビンの木の下に埋めた。

35:9 さてヤコブがパダンアラムから帰ってきた時、神は再び彼に現れて彼を祝福された。

35:10 神は彼に言わされた、「あなたの名はヤコブである。しかしあなたの名をもはやヤコブと呼んではならない。あなたの名をイスラエルとしなさい」。こうして彼をイスラエルと名づけられた。

35:11 神はまた彼に言わされた、／「わたしは全能の神である。あなたは生めよ、またふえよ。一つの国民、また多くの国民があなたから出て、／王たちがあなたの身から出るであろう。

35:12 わたしはアブラハムとイサクとに与えた地を、／あなたに与えよう。またあなたの後の子孫にその地を与えよう」。

35:13 神は彼と語っておられたその場所から彼を離れてのぼられた。

もはや彼は神様に、ここをあなたの祝福の約束をとどめる場所として記憶してください、福と食べるものを恵んでください私はお礼に十分の一の捧げものをしましょうとは言わずに、「われわれは立ってベテルに上り、その所でわたしの苦難の日にわたしにこたえ、かつわたしの行く道で共におられた神に祭壇を造ろう」と語り、すでに成してくださったものもろろの恵みのわざのゆえに神様をほめたたえると語りました。もう彼はすでに坂を上り終え、その目前に神様と共にいるのです。彼は偽りの神々を一族のもとから捨て去り、無条件に神様の恵みに感謝したのです。彼自身の中に未だ解決されない悩みや不安なことがあろうとも、彼はそこを神の家として、神様の今までの限り成す恵みと力強いお導きに感謝して、無条件にこれから彼の歩みを主に委ね、全幅の信頼と従順の心をとささげる者となったのです。

そして彼の12人の息子たちの物語が始まります。

37:1 ヤコブは父の寄留の地、すなわちカナンの地に住んだ。

37:2 ヤコブの子孫は次のとおりである。ヨセフは十七歳の時、兄弟たちと共に羊の群れを飼っていた。彼はまだ子供で、父の妻たちビルハとジルバとの子らと共にいたが、ヨセフは彼らの悪いわざを父に告げた。

ヤコブは4人の妻との間に結局12人の子を設けました。

35:23 すなわちレアの子らはヤコブの長子ルベンとシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。

35:24 ラケルの子らはヨセフとベニヤミン。

35:25 ラケルのつかえめビルハの子らはダンとナフタリ。

35:26 レアのつかえめジルバの子らはガドとアセル。これらはヤコブの子らであって、パンアラムで彼に生れた者である。

彼の最愛の妻ラケルはヨセフの弟ベニヤミンを産んだ後に亡くなってしまいました。そしてヤコブは17歳になっていたヨセフを溺愛していたことが書かれています。

37:3 ヨセフは年寄り子であったから、イスラエルは他のどの子よりも彼を愛して、彼のために長そでの着物をつくった。

37:4 兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語ることができなかった。

ヤコブはヨセフを特別扱いして、手のひらまでかかる長い袖の上着をヨセフに着せました。兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語ることができなかったとあります。

そんな中、ヨセフが見た夢について、家族の間で物議を醸します。

37:5 ある時、ヨセフは夢を見て、それを兄弟たちに話したので、彼らは、ますます彼を憎んだ。

37:6 ヨセフは彼らに言った、「どうぞわたしが見た夢を聞いてください。

37:7 わたしたちが畑の中で束を結わえていたとき、わたしの束が起きて立つと、あなたがたの束がまわりにきて、わたしの束を拌みました」。

37:8 すると兄弟たちは彼に向かって、「あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか」と言って、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ。

37:9 ヨセフはまた一つの夢を見て、それを兄弟たちに語って言った、「わたしはまた夢を見ました。日と月と十一の星とがわたしを拝みました」。

37:10 彼はこれを父と兄弟たちに語ったので、父は彼をとがめて言った、「あなたが見たその夢はどういうのか。ほんとうにわたしとあなたの母と、兄弟たちとが行って地に伏し、あなたを拝むのか」。

37:11 兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。

ヨセフと夢とのお話はすでにここに端を発していました。もちろんエジプトで、その類まれな賜物を彼は用いて神様のお導きの中用いられますが、ここにその発端がありました。父ヤコブにも、兄弟たちにも、それが何のことかわからず、兄弟たちは彼が溺愛されて有頂天になっているのだと妬ましく思うばかりでしたが、しかしここに神様の真理が現れているのでした。神様のお導きというのは、私たちが理解できない時、理解することのできるようになる遙かはるか前にすでにその発端が、糸口が示されているという事があるのだという事が聖書から教えられます。父ヤコブの不公平な愛情、兄弟たちの妬みと憎しみ、こういうことは人の弱さなのですが、こういうどろどろとした状況さえも神様は捕らえて、ご自分の突き抜けた御業の中に置かれるのです。

37:12 さて兄弟たちがシケムに行って、父の羊の群れを飼っていたとき、

37:13 イスラエルはヨセフに言った、「あなたの兄弟たちはシケムで羊を飼っているではないか。さあ、あなたを彼らの所へつかわそう」。ヨセフは父に言った、「はい、行きます」。

37:14 父は彼に言った、「どうか、行って、あなたの兄弟たちは無事であるか、また群れは無事であるか見てきて、わたしに知らせてください」。父が彼をヘブロンの谷からつかわしたので、彼はシケムに行った。

37:15 ひとりの人が彼に会い、彼が野をさまよっていたので、その人は彼に尋ねて言った、「あなたは何を捜しているのですか」。

37:16 彼は言った、「兄弟たちを捜しているのです。彼らが、どこで羊を飼っているのか、どうぞわたしに知らせてください」。

37:17 その人は言った、「彼らはここを去りました。彼らが『ドタンへ行こう』と言うのをわたしは聞きました」。そこでヨセフは兄弟たちのあとを追って行って、ドタンで彼らに会った。

37:18 ヨセフが彼らに近づかないうちに、彼らははるかにヨセフを見て、これを殺そうと

計り、 37:19 互に言った、「あの夢見る者がやって来る。

37:20 さあ、彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう」。

野をさまよい、兄たちの消息を探るヨセフ。これぞチャンスと遠目に彼を見つめ、殺意に燃え相談し合う兄弟たち。

さあ、兄弟たちが彼にひれ伏し、父と母までもが彼に伏すというとんでもない夢は、どうなってしまうのでしょうか。神様の非常識で非現実的に思えるご計画は荒唐無稽なものとしてここに碎け散ってしまうのでしょうか。哀れ溺愛されたヨセフは兄たちの妬みによって殺されていい氣味だと笑われて終わってしまうのでしょうか。弱く心許ない私たちはどうでしょうか。神様を信じると誓った時以来、神様は私たちを導き、高い山をも越えさせ、神様の御力を示されたのに、今度という今度は万事休すで、神様の与えてくださった私たちへの素晴らしい夢は、今度という今度こそ破綻すると私たちは叫び声をあげるのでしょうか。神様のご計画は、どうなるのでしょうか。私たちにビジョンと志と夢を与える神様のご計画は、妨害者たちの悪の策略によって粉々に崩れ去ってしまうのでしょうか。

37:21 ルベンはこれを聞いて、ヨセフを彼らの手から救い出そうとして言った、「われわれは彼の命を取ってはならない」。

37:22 ルベンはまた彼らに言った、「血を流してはいけない。彼を荒野のこの穴に投げ入れよう。彼に手をくだしてはならない」。これはヨセフを彼らの手から救いだして父に返すためであった。

長子ルベンは奮っていました。そしてのちに家督を継ぐことになるユダもまたしかりでした。

長子のルベンこそ、自分の地位を侵されるヨセフに嫉妬を抱いていたのだと思いますが、彼は父ヤコブがヨセフを失ったのならどのように悲しむのかを思っていました。

「これはヨセフを彼らの手から救いだして父に返すためであった」

この「手」という言葉が21-22節に3回、27節に1回出てきます。

ヨセフを自分たちの手にかけて殺すという意味での「手」という言葉です。

父なる神様がこよなく愛する御子イエス・キリストを寄ってたかって共謀して手にかけるというあのくらい暗い謀略の手の業です。

人間は、そのすべての歴史の中で、どれくらい多くのこの暗い、邪悪な手の業を弄してきたのでしょうか。

しかしその魔の手からヨセフを守ろうとする手の働きもまたここにはあったのです。  
「これはヨセフを彼らの手から救いだして父に返すためであった」

37:23 さて、ヨセフが兄弟たちのもとへ行くと、彼らはヨセフの着物、彼が着ていた長そでの着物をはぎとり、

37:24 彼を捕えて穴に投げ入れた。その穴はからで、その中に水はなかった。

37:25 こうして彼らはすわってパンを食べた。時に彼らが目をあげて見ると、イシマエルびとの隊商が、らくだに香料と、乳香と、もつやくとを負わせてエジプトへ下り行こうとギレアデからやってきた。

37:26 そこでユダは兄弟たちに言った、「われわれが弟を殺し、その血を隠して何の益があるう。

37:27 さあ、われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、彼に手を下してはならない」。兄弟たちはこれを聞き入れた。

37:28 時にミデアンびとの商人たちが通りかかったので、彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行つた。

そのような助けの手があることなど露も知らず、ヨセフは愛する兄たちとの面会を喜ぶのもつかの間、寄ってたかってあの特別な衣を引きはがされ、穴の中へと落とされてしまします。その穴は雨水をためておくため池のような穴であって、そこに水があったなら、彼はそこでおぼれてしまっていたかもしれません。ルペンは跡でこっそりと彼を助けに来ようと考えていました。

さてユダもまたヨセフを助けようと思う一人でした。ルペンの一聲により、その場で彼を引き裂くことはなかったにしても、あとできっと誰かが来て穴の中のヨセフを引っ張り出してとどめを刺すに違いないと考えた彼は彼を奴隸証人に売ろうと考えました。

37:27 さあ、われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、彼に手を下してはならない」。兄弟たちはこれを聞き入れた。

ここにも手を下すなという言葉がありました。私たちが手を下すとき、その手の業が本当に確かなものなのでしょうか。神様の御心にかなった良いものなのでしょうか。本当に心を探られます。

詩編 90(新共同訳)90:17 わたしたちの神、主の喜びが／わたしたちの上にありますように。わたしたちの手の働きを／わたしたちのために確かなものとし／わたしたちの手の働きを／どうか確かなものにしてください。

90:17(新改訳) 私たちの神、主のご慈愛が私たちの上にありますように。そして、私たちの手のわざを確かなものにしてください。どうか、私たちの手のわざを確かなものにしてください。

37:29 さてルベンは穴に帰って見たが、ヨセフが穴の中にいなかったので、彼は衣服を裂き、  
37:30 兄弟たちのもとに帰って言った、「あの子はいない。ああ、わたしはどこへ行くことができよう」。

ルベンにとっては目論見違いの結果になって慌てふためくのですが、ヨセフは奴隸として売られていったとはいえ、この荒れ地にその血を注ぐことだけは避けることが出来ました。

神様に用いられる良き手の業が、神様の御心の成就のために用いられます。そして神様の御業がなされます。私たちもまた、聖霊様の導きによる良い意志をもって、神様の前に良き手を用いて今週の働きに進ませていただきたいと、主の憐れみと救いを待ち望むばかりです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

かつて不安の中にあった荒野の地は天の門となり、神の家となりました。そしてやがてエサウを目前にして命の危険の最も高まる、待ったなしの恐れの真っただ中のどうにもならない地は神様と顔と顔とを合わせてどっしりと相まみえる祈りの地、祝福を懇願してかなえられる地となりました。12人の子供たちとの間では、妬みと憎しみの渦が生まれ、悲しい出来事が起こりますが、その悲惨が、神様による一族を導く出来事として変えられて行きました。。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン